



平成13年6月3日
第125号
清野新聞社

花見 清野宏

宇宙の中にある一点 地球に春夏秋冬の四季があることは子供の頃不思議でした。私の家の裏山には福島神社があります。明治四〇年頃、福島県から団体で開拓入植した先人が大正十一年に現在地に祭ったものです。

上芭露市街の大工、森原さんが製作し、春の固雪の時に氏子一同で櫓に乗せて北の方から運び上げたことを子供心に記憶しています。以来八〇年が経過しました。昔は六月十五日に大祭をしていました。札幌北海道神宮の大祭と同じ日でした。今は桜の花の咲く時期に花見として祭りをします。今年五月十六日に実施しました。

福島神社には大山津見神社「女の山の神様」、土岳神社「火の神様」、相馬妙見神社「馬の神様」と三つの神様を祭っています。氏子も三代目が多く、転居して戸数も現在は十一戸となりました。私達の心の支えとして今後も末永く守っていくと信じています。八〇年前に生えた山桜も老木となりましたが、今年も花が咲きました。

私も山桜と同じ老木になったと感慨しながら、祭りを終え山を下って来ました。若い頃は一生懸命働いただけで、花見には縁がなかった。今は老人会等で上湧別町のチュウリップ、東藻琴町の桜草、小清水町

のユリ公園、丸瀬布町の藤祭り、秋には北見市の菊祭りとかちへ見てまわるようになりました。我が家でも婆ちゃんの花壇をつくり楽しんでます。

美しいものを観ることは自然を愛することであり、自然を愛することは自分を愛することにつながります。心にも身体にもゆとりがある証なのです。然し人間も生物であり、確実に老いて消えていきます。樹木も草花も花を咲かせて子孫を残して自分は消えていく、それが自然の営みだと思います。花見が出来て人間も自然と共存していることを感じています。

ゆびちゃんズがー

二〇〇一年五月三〇日水曜日の午前零



時から午後九時の間十五分以上継続してスポーツ運動を行った住民の参加者数を

新潟県佐渡島の相川町と競う「ゆうべつチャレンジ二〇〇一」が実施されました。本町ではこの日のために様々なイベント講習会を実施しています。個人でスポーツや運動をされてもかまいませんが各自治会にはスポーツサークルがあり、湧別町には連合サークルもあります。一人一回参加登録になっています。私は上芭露のゲートボール同好会の会長です。一人で多くなの人に参加して欲しいとおもっています。一般の方々はラジオ体操でも結構です。

勝れば相川町の街に湧別町の旗が一週間掲げられることになっています。負ければ相川町の旗が湧別町に掲げられます。私の生涯に初めて最後の取り組みと思っています。

結果は町民一同、一生懸命頑張りまして、湧別町の参加率が六二・六％。対する相川町は六一・八％と僅差ではありますが湧別町が勝利しました。

山菜どれが一番

「山の幸海の幸」という言葉は幼い頃より聞かされた。春は野菜が不足がち。春一番に採取できるのはアイヌネギ。それから三ツ葉、タラの芽、山ウド、ワラビなどです。その中でも北海道の代表はアイヌネギ。山や沢の雪解けの急斜面に新芽を出します。昔はたくさんありましたが、最近街の人が車で大勢来て、根こそぎ採取しますので翌年ではなくなり、減ってきました。私共は三本に一本は残して採取します。おひたしやジンギスカン、焼肉に入れて食べるのが一番美味しくこたえられませんか。畑仕事に忙しくて遅れて採りに行ったら後

の祭りの時もありました。アイヌネギの生える場所は内緒で誰にも教えないのが常識です。今年には相当山の中に入り込んで苦労して採って来ました。

東京に就職している三男坊が懐かしい味なので食べたいと言ったのでたくさん採って送ってやりました。しかし、強烈なニオイが難点、大丈夫だったでしょうか。



修より

先日はアイヌネギとフキを送っていただいてありがとうございます。早速連休明けに職場へ持って行って、ジンギスカンパーティーをやりました。たまたま職員の親戚に猟師がいて紀伊半島の山奥で捕れた鹿と猪の肉も手に入り、盛大な宴会になってしまいました。もちろんほとんどの人はアイヌネギは初めてで不思議な味だと喜んで食べていました。心配していたニオイも子供の頃に比べると臭味が少なくなってきましたようです。